昔40と一緒に行ったパンケーキ屋に9を連れて行く45

畑渚

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

リクエストをもらったのでＴｗｉｔｔｅｒでつぶやいた概念を形に

リクエスト内容

・４５か９

・ハッピーエンド

目　次

昔４０と一緒に行ったパンケーキ屋に９を連れて行く４５ ―――――― 1

昔４０と一緒に行ったパンケーキ屋に９を連れて行く４５

「４５姉が人間の店につれてってくれるなんて珍しいね」

半歩後ろを歩く９がそう呟く。そうかもしれない。あの日からというもの、私は人間の店にはあまり立ち入らないようにしていた。

でも、あの店だけは別だった。短い私の人生の中で、唯一輝いている思い出の場所。

「いらっしゃいませ」

森の匂いを感じる扉を押せば、初老の男性と女性が落ち着いた声で迎えのあいさつを告げる。あの時と変わらぬまま、その店は維持され続けていた。

「わ～！すごい雰囲気のいいお店！」

「９、はしゃがないの」

９は目をキラキラと輝かせながら、店内を見回す。壁にかかる味のある絵。カウンター上に飾られた著名人のサイン。そして店内を満たす木の匂い。あの時のなんら変わりのない店内だ。

「もしかして……これって天然木？」

９はカウンター席に座ると、机をコツコツと叩いた。適度な空洞が返す音は、プラスチックや金属とはまったく違っていた。
「ああ、この地域の東にはまだ天然木が自生している地域があるんだよ」
店の主人は立派な髭を撫でながらそう言った。９も興味津々に話に聞き入っている。
「９、先に注文をきめましょう？」
「あっそのほうがいいね。４５姉はどうする？」
「私はこの日替わりセット」
前に来たときは、いちごののった甘いパンケーキだった。ともにでてきたコーヒーも素晴らしかった。思い出の中でも色褪せない味が、再び私の足をここに向けさせたと言っても過言ではない。
「じゃあ私はこのチーズのパンケーキと、それから４５姉のと同じコーヒーで！」
店の主人は笑顔でうなずくと、フライパンにバターをのせた。
「それで、４５姉はこの店をなんで知ってるの？」
「……私の過去は見たのよね」
「うん……」
うつむく９を見てため息が出そうになる。どうやら９は私の過去について、見たことで自責の念を感じているようだった。

「別に気にする必要はないわ」
　開いた窓から外を眺めてみる。今日も大通りは人が多く、すこし騒がしくも感じる。しかし店内は、外から流れ込んでくる涼しい風で心地よい空間になっていた。
「４０が……連れてきてくれた店なの」
「なるほど……」
　なんとなく会話のしづらい空気を変えたのは、料理が置かれてからだった。
「すごい美味しそう！」
　９ははしゃぎながら携帯端末で写真を撮っている。
「ほら、４５姉も！」
　９が笑って、カメラのレンズをこちらに向ける。
『ほら！４５、笑って笑って！』
　その笑顔が、まるで４０のようで……
「……４５姉？」
「えっああ、ごめん。少し考え事を」
「もー、せっかくのパンケーキが冷めちゃうよ」
　９は既にナイフとフォークを持っている。まるで待てと命令された忠犬のようだった。

「じゃあ、食べましょうか」
　私がフォークに手を触れた、その時だった。
「へえ、ここ?」
「うん、あたいイチオシのパンケーキ屋!」
　何気ない会話だった。ここもある程度知名度のある店だ。他の客がいてもおかしくない。
　しかし、その外から聞こえた声の片方は、聞き覚えがあった。忘れるはずもない、しかし、けっして聞けるはずのない声だった。
「K2もきっと気に入ってくれると思うよ!」
「からいのはあるかな!?」
「からいのは……、どうだったかなぁ……」
　へへへっと苦笑いしながら、その声の主は店の扉を押した。
「４５姉……アレって」
「何を言ってるの９。私の知る４０はもういない。きっとアレは新造されたのよ」
「えっでも……、いやなんでもないよ」
　９は逃げるように、パンケーキを食べる手を早めた。私は今、どんな酷い表情を浮かべているというのだろうか。

私もパンケーキを食べる手を早める。一刻も早く、後ろのテーブル席で楽しそうに談笑する彼女の声から遠ざかりたかった。

パンケーキを流し込むように、コーヒーを飲み切る。カップをソーサーに置くと、カチャンと小さな音がした。

しかしその小さな音は、なぜか静まり返っていた店内では大きく響いた。

「……４５？あんたもしかして４５？」

背中側から聞こえる声も、もちろん静かな店内では鮮明に聞こえた。

４０４の私をＵＭＰ４５であると認識してくれる戦術人形ＵＭＰ４０は、この世界に一人しかいない。